

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：生活環境学科

資格：准教授

氏名：山田 由美

研究分野	研究内容のキーワード
建築設計	住宅の設計手法についての研究 町家の現代住宅への転用 環境共生住宅
学位	最終学歴
修士(工学), 工学士	京都工芸繊維大学大学院 工芸学研究科 住環境学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 修士論文指導「歴史的な市街地における伝統的 家屋の保全・活用と居住環境の向上に関する研究」	2015年4月～2017年3月	兵庫県たつの市龍野地区を研究の対象地とし、伝統的 家屋の居住環境を現代の生活空間に適応させるための課 題を明らかにし、家屋の維持・活用の方向性を示唆した。
2. 修士論文指導「歴史的な地方小都市における地域特 性を考慮した伝統的建造物の活用に関する研究」	2015年4月～2017年3月	兵庫県たつの市龍野地区を研究対象地とし、生活環境、 コミュニティ、観光資源、町の空間特性の4つの視点から 分析した町の地域特性をもとに、伝統的建造物の地域特 性を考慮した活用にむけての課題を整理し、活用の方向 性を示唆した。
3. 設計実習	2012年～現在	少人数のグループ制(スタジオ制)を導入し、グループ 内でのディスカッションを密にすることで、学生の設計 スキルとプレゼンテーション力の向上を図った。
4. 基礎設計演習	2011年～現在	立体感覚と空間把握能力の育成を重視し、模型と実際の 空間の写真を使った製図指導を実施した。
2 作成した教科書、教材		
1. 大学の基礎・設計製図演習の教材作成	2019年3月	本学科学学生の特性を考慮した製図技術を向上させるた めの教材を作成し、2019年度から1年生のすべてのクラス の授業で活用している。 なおこの教材は、短大の基礎・住宅製図でも活用してい る。
2. 短大 住宅施工の教材の作成	2018年9月	テキストを補足解説する図・写真入りの教材を作成し、 二級建築士受験に必要な知識習得の促進を図った、
3. 短大・住宅設備計画の教材の作成	2013年9月	身近にある住宅設備の技術的概要を写真、図入りで解説 した。
4. 大学・短大の設計実習の教材作成	2013年10月	2年次以上の設計実習向けに、製図のポイントをチェッ クリスト形式で簡単に確認できるようにした。尚、この 教材は担当外の設計実習でも活用されている。
5. 短大・設計実習における教材の作成	2013年06月	構造形式毎の主な設計ポイントを図入りで解説した。
6. 大学・住宅設計の教材の作成	2011年09月	生活様式と共に移り変わる台所、浴室、便所、洗面所 の変遷をまとめると共に、次世代に向けた社会動向を反映 した事例を解説した。
7. 短大・住宅計画の教材作成	2011年09月	二級建築士試験に対応する住宅計画上の重点項目を、理 解しやすいように図入りで解説した。
8. 大学、短大の基礎製図実習の教材作成	2011年04月2013年改訂	具体的な作図手順の解説と共に、実際の空間と2次元で表 現する図面との相関関係を理解させる工夫を盛り込んだ。
9. 短大・CAD実習における教材の作成	2010年04月	CADにおいてよく使う操作、作図スピードアップのた めのコツなどを図入りで解説した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 企業と提携したインターンシップの実施	2010年～現在	建築、インテリア系の企業と提携したインターンシップ を企画し、企業側との研修内容の調整を行った。また派 遣する学生に対し、建築・インテリア系の企業で働くた めに必要な基本的な心構えとスキルを指導した。
4 その他		
1. さまざまな場所のかさなり 一人をつなぐ集合住 宅―	2018年3月	学生(坪田夏実)の指導。 近代建築6月号別冊 卒業制作2018掲載予定。 2018年「JIA近畿支部 学生卒業設計コンクール」に応募 した学科代表作品(2点中1点)。
2. Switch 一人々の拠点となるサテライト庁舎―	2018年3月	学生(松本結衣)の指導。 日本建築学会 第59回全国大学・高専卒業設計展示会に 出展する学科代表作品。
3. M's Collection 共通教育で女子力上げてみない ?	2017年9月～2018年2月	共通教育委員の業務の一環。ボランティアの学生編集委 員により作成した、新入生向けの共通教育紹介ブックレ ットの編集指導。
4. GRMプロジェクトの学生指導	2017年6月～2018年6月	大阪建設株式会社から委託された、大阪大学、関西学院 大学と本学が連携して実施するインターカレッジ形式の 実践的プロジェクトの学生指導。 <プロジェクトの成果> ・第15回集合住宅再生・団地再生・地域再生学生賞(一 般社団法人 団地再生支援協会)実施部門奨励賞 受賞 ・住宅建築10月号p.110～117 シリーズ「研究室からフィ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
5. あがまちコモンズ 地域をつなぐ集合住宅	2017年3月	「ワールドへ第36回」掲載 共同担当：岩田章吾 学生の指導。 日本建築学会近畿支部 第71回卒業設計コンクールへの学科代表応募作品。
6. 旧草津川みらい構想	2017年3月	学生の指導／日本建築学会 第58回全国大学・高専卒業設計展示会に出展した学科代表作品。
7. 「ただいま」と「おかえり」のいえ -高齢者と子供の交流による住環境の改善-	2016年3月	学生の指導／日本建築学会近畿支部 第70回卒業設計コンクールへの学科代表応募作品。
8. 新開地シネマストリート計画	2016年3月	学生の指導／日本建築学会 第57回全国大学・高専卒業設計展示会に出展した学科代表作品。
9. 子どもの寄り道	2015年6月	学生の指導／近代建築 6月号別冊 卒業制作2015掲載 (p240, 241) の作品。
10. もがりの森 -現代の葬儀のあり方の考察-	2015年3月	学生の指導／日本建築学会近畿支部 第69回卒業設計コンクールへの学科代表応募作品。
11. もてなしの駅舎	2015年3月	学生の指導／日本建築学会 第56回全国大学・高専卒業設計展示会に出展した学科代表作品。
12. 「つみきのいえ」その後	2014年6月	学生の指導／近代建築 6月号別冊 卒業制作2014掲載 (p246, 247) の作品。
13. ル・コルビュジェ最後の7日間	2013年6月	学生の指導／近代建築 6月号別冊 卒業制作2013掲載 (p246, 247) の作品。
14. 感情と建築の両義性 一心のケアと生活支援―	2013年3月	学生の指導／日本建築学会近畿支部 第67回卒業設計コンクールへの学科代表応募作品。
15. 雨の美術館 ―日本人の美意識をたどる―	2013年03月	学生の指導／日本建築学会 第54回全国大学・高専卒業設計展示会に出展した学科代表作品。
16. 変化する風景 ―体感・滞在型余暇施設の提案―	2012年3月	学生の指導／日本建築学会 第53回全国大学・高専卒業設計展示会に出展した学科代表作品。 京都建築学生之会合同卒業設計展公開講評会「建築×建築」第3位入賞。
17. from NAKAZAKI	2011年6月	学生の指導／近代建築 6月号別冊 卒業制作2011掲載 (p226, 227) 作品。
18. 学科内のギャラリー化の企画、運営	2011年～現在	卒業研究、制作および授業における優秀作品と各研究室紹介パネルの掲示を考案・実施。学生に対し具体的な目標を提示することで、教育的効果を狙った。
19. 学生への資格取得支援	2010年～2019年3月	・二級建築士学科試験対策講座の学内講座の運営スキームを構築し、開講する。2014年から運営を資格サポート窓口に移管し、学科内の学生のサポートを担当する。 ・インテリアコーディネーター学科&製図試験対策講座のカリキュラムを一新 (2010年～2013年)
20. 学生へのキャリア支援	2010年～現在	学科特性に即したセミナー、勉強会の企画・実施 大学内でリクルーターを招いての企業研究を目的とした座談会を実施し、学生とOGとのコミュニケーション促進を図った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 一級建築士	1992年3月7日登録	第238771号
2. 高等学校教諭専修免許 工業 (更新講習未受講)	1988年3月31日	昭62高一普め第255号 (京都府立教育委員会)
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 一級建築士として建築設計活動に従事	～現在	
4 その他		
1. 教務委員	2019年4月～現在	
2. 龍野の暮らしと子育て環境に関する意見交換会	2017年9月11日, 23日	歴史的町並みが残る地区に居住する子育て世代と子育てを終えた主婦による、暮らしと子育て環境に関する意見交換会。龍野地区まちづくり協議会からの委託により、地区の特性が生活と子育て環境にどのように影響しているかを明らかにする目的で実施。
3. GRM5プロジェクト	2017年6月～2018年6月	大阪建設株式会社から委託された、大阪大学、関西学院大学と本学が連携して実施するインターカレッジ形式の実践的プロジェクト。3大学からなる実行委員会を組織し、事業主である企業と協同でプロジェクトを運営する。尼崎市武庫之荘にある木造2階建共同住宅のリノベーション設計に各大学2住戸づつ実施案の設計に取り組んだ。共同担当：岩田章吾
4. 歴史的な地方小都市における地域活性に関する研究 その2 -たつの市龍野地区の子育て環境について-	2017年5月10日～2018年3月2日	兵庫県たつの市のまちづくり団体「龍野地区まちづくり協議会」からの委託研究。平成12年より公立小学校の生徒数が減少し続ける地方小都市において、わずかずつで

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
5. 共通教育委員	2017年4月～2019年3月	はあるが生徒数が増加している小学校の校区を対象に、子育て世代の主婦との意見交換会や子どもワークショップをとおして、校区内の子育て環境の実態を調査し、環境維持および向上のための課題と方向性を示唆した。報告書「歴史的な地方小都市における地域活性化に関する研究 その2 -たつの市龍野地区の子育て環境について-」を提出した。
6. 龍野地区「みんなの遊び場マップ」の展示	2017年11月24日～26日	町おこしの一環で実施されている「オータムフェスティバルin龍野」にて子どもワークショップの成果物である「みんなの遊び場マップ」を展示し、展示場（かどめ広場休憩所）において子ども達の遊び場と遊び方の変化について地区の住民とディスカッションを実施した。
7. 子どもワークショップ「みんなの遊び場」	2017年10月14日、15日	歴史的町並みが残る兵庫県龍野町龍野地区にて、地区内の子ども達の遊びの実態を明らかにするためのワークショップを龍野地区まちづくり協議会からの委託により実施した。たつの市立龍野小学校の児童有志が、当学科学生のサポートのもと、遊び場マップと遊びの様子の絵画を作成した。
8. 親子向けワークショップ「わたしたちのまちづくり」	2016年10月16日	「兵庫・神戸みんなの住まい展」（兵庫・神戸 みんなの住まい展実行委員会主催）にて、兵庫県建築士事務所協会からの委託による子供向けワークショップを実施した。
9. 歴史的な地方小都市における地域活性化に関する研究	2015年5月～2017年3月	兵庫県たつの市のまちづくり団体「龍野地区まちづくり協議会」からの委託研究。地区内に残る伝統的建造物の現状、地区住民の居住環境に対する意識、および来訪者の行動を調査・分析し、伝統的建造物を活用する上での課題と方向性を示した。報告書「歴史的な地方小都市における地域活性化に関する研究 第1部 地域特性を考慮した伝統的建造物の活用について 第2部 伝統的の家屋の活用と居住環境の向上について」を提出した（共著：植保奈美、西村和）。
10. 卒業研究展実行委員	2015年4月～2017年3月	学生の教育的効果と学外にむけての情報発信を目的に、学科の卒業研究・作品の展示会を実施した。「卒業研究展（2015年度）」の会場責任者、「卒業研究展（2016年度）」の総括責任者として従事した。
11. 兵庫県立川西明峰高等学校における大学模擬授業	2015年3月9日	「住まいのインテリア」というテーマで、高校生になじみのあるドラマのシーンの背景にあるインテリアエレメントを紹介し、生活環境におけるインテリアデザインの意義を分かりやすく解説した。さらに、空間デザインのテクニックの一部をレクチャーし、簡単な空間デザインの演習を実施した。
12. 垂水・すまいのリフォーム講座の講師	2013年10月～11月	垂水区役所主催の一般市民向けリフォーム講座において、リフォームを実施する際に必要な基本的知識について講義した。
13. 学科展委員	2010年4月～2014年3月	学生の教育的効果と学外にむけての情報発信を目的に、学科の卒業研究および授業成果である学生の研究・作品の展示会を実施し、主に作品収集、会場構成を担当した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 歴史的都市における住環境の研究（修士論文）	単	1988年03月01日	京都工芸繊維大学大学院	文献調査をもとに歴史的町並みが残る都市がかかえる課題と歴史的建造物の活用の動向、および現代生活に求められる空間構成を整理し、得た知見を従来の京町家の空間に適合させるための設計手法を考察し、実際の京町家増改築の設計を通して手法の可能性を実証した。
3 学術論文				
1. 歴史的な地方小都市における地域活性化に関する研究 その2-伝統的の家屋の居住環境向上と活用について-	共	2017年05月26日	日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系 p.137～140	伝統的の家屋居住者の家屋に対する価値意識と、居住環境を現代の生活に適応させるための課題を明らかにし、家屋の維持・活用の方向性として、単独家族居住や常時居住にこだわらないシェアリング居住の形式を具体的な改修案として提示した。 植保奈美、山田由美、西村和 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2. 歴史的な地方小都市における地域活性化に関する研究 その1-地域特性を考慮した伝統的建造物の活用について-	共	2017年05月26日	日本建築学会近畿支部研究報告集 計画系 p.133～136	歴史的町並みが残る地方小都市のひとつである兵庫県たつの市龍野地区を研究対象地とし、生活環境、コミュニティ、観光資源、町の空間特性の4つの視点から分析した町の地域特性をもとに、伝統的建造物の地域特性を考慮した活用にむけての課題を整理し、活用の方向性を提示した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. 宇多野コーポラティブハウスー「集まって、心地よく、永く住む」ための集住のあり方（査読付）	共	2013年9月1日	生活環境学研究No.1（武庫川女子大学）p6-9	西村和、山田由美、植保奈美 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 歴史文化の街・京都において、持続可能な居住環境の構築に向けて、景観デザインのみではなく住宅所有のしくみや住民意識にも立ち返り、周辺環境への調和と居住空間の充実・維持を両立する方策を立案、実施し、その有効性を検証した。 山田由美, 角田暁治
4. プラザK. I. T（審査あり）	共	2010年03月20日	日本建築学会 作品選集2010 p162-163	本野精吾設計の車庫と老朽化が進み活用されなくなった実習室をリビルドし、新たに門衛所を併設して学生サロンとして再活用した計画。つくられた時代と機能が異なる3つのヴォリュームを、違和感なく連続させる方策を考察した。 角田暁治, 山田由美
5. 住環境デザインの研究(6)：京町家の増改築事例に関する考察<その2>	共	1987年5月1日	日本建築学会近畿支部研究報告集。計画系(27)p437-440	共同研究につき本人担当部分抽出不可能 実際の京町家増改築計画を通して、現代生活に求められる空間構成から必要な建築設計上の基準を設定し、従来の京町家の空間に適合させるための設計手法を考察した。 西村征一郎, 佐々木由美
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 宇多野コーポラティブハウス	共	2012年09月12日	日本建築学会建築デザイン発表会 学術講演梗概集 2012(建築デザイン)p70-71	「一団地申請」「コーポラティブ方式」「スケルトン定期借地方式」「長期優良住宅設計指針の遵守」を採用することで、住み手のライフサイクルの変化に対応した持続可能な住環境の形成を可能にした集合住宅。 山田由美, 角田暁治
3. 総説				
1. 生活環境学科 卒業研究展（2016年度）	単	2017年10月	生活環境学研究No.5（武庫川女子大学）p128-129	2016年度学科活動報告のうち、卒業研究展の欄を執筆。展示内容から研究テーマを分析し、本年度の卒業研究には社会の動向を意識した実践的な研究・制作に重点が置かれている傾向にあることと、アンケートの分析から卒業研究展には研究成果の発信に留まらず、学外とのインタラクティブな情報交換の場としての役割が期待できる点を示唆した。
2. 宇多野コーポラティブハウス	共	2012年03月15日	Good Design Award2011 p344	天宅毅, 角田暁治, 山田由美
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. Kクリニック	単	2014年竣工	大阪市（実施設計）	高齢者患者を対象とした、バリアフリーとヒーリングをテーマとしたインテリア空間のデザイン。
2. 宇多野コーポラティブハウス（グッドデザイン賞2011住宅部門 受賞）	共	2010年竣工	京都市（実施設計） グッドデザイン エキスポ2011にて展示	歴史文化の街・京都において、「一団地申請」「コーポラティブ方式」「スケルトン定期借地方式」を採用し、住み手のライフサイクルの変化に対応した持続可能な住環境の形成を可能にした集合住宅。 角田暁治, 山田由美
3. 八幡の家	単	2009年竣工	大阪府八幡市に現存（実施設計）	「不確実な将来への対応」をテーマに、可能な限りのフレキシビリティと許容量をもつ個人住宅。大きな室容積を持つリビングに引戸レールを仕込んだ飛び梁を設け、空間を必要な領域毎に区切ることと増床を可能にした。
4. 逆瀬川の家	単	2009年竣工	宝塚市に現存（実施設計）	住宅密集地における個人住宅。吹抜や階段、四方に開けた小さな開口部を有効に使い、コンパクトではあるが狭さを感じさせない工夫を施した。
5. プラザK. I. T	共	2007年竣工	京都市（実施設計） 日本建築学会 作品選集2010 p. 162-163	老朽化が進み活用されなくなった実習室と車庫をリビルドし、新たに門衛所を併設して学生サロンとして再活用した計画。 角田暁治, 山田由美
6. 奥池の家	単	2006年竣工	兵庫県芦屋市（実施設計） 住宅特集（新建築社）2006年4月号p152～157	生活空間と周囲の緑との距離感を可能な限り小さくした個人住宅。
7. アクアゴールドチャペル（大阪ヒルトン増築）	単	2002年竣工	大阪市に現存（実施設計）	ホテル低層階屋上でのチャペル増築計画。チャペルと池のインタラクティブな関係とチャペルに至るまでのシークエンスを重視すると共に、チェペル内部では光が差し込むことで室内の表情が時間と共に移り変わる仕掛を施した。
8. コンドーFRP本社ビル	共	2001年竣工	大阪市（実施設計） 彰国社ディテール147号	周辺の街並を構成している人間的スケールと、ごくありふれたローコストの素材との同調をテーマとした事務所ビル。 野村充, 山田由美

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
9. セカンドイン梅田	共	1998年竣工	大阪市（実施設計） 日経アーキテクチャー（1999.2.22号） 商店建築（1999年2月号） ホテル旅館（1999年8月号）	眠るという機能に特化した快適性とリミテッドサービスを追求した宿泊特化型のホテル。 野村充, 山田由美
10. 三木楽器アメリカ村店	共	1997年竣工	大阪市（実施設計） 彰国社ディテール134号	音楽教室と貸しスタジオを併設する楽器店。街の喧騒の中に更に新たな表象を創り出すのではなく、時間や行為を媒介として街と呼応する建築のあり方を考察した。 野村充, 山田由美
11. 西尾マンション		1997年竣工	大阪市に現存（実施設計）	古くから居住する建築主と新しい都市居住者の共生をテーマとした共同住宅。
12. 日本紐卸貿易ビル		1994年竣工	大阪市に現存（実施設計）	問屋街に建つ店舗兼事務所ビル。条例規制で生まれたスカイラインの街並に、新しいアイデンティティを持つ建築的文脈を挿入しようとした。
13. メイセー淡路町ビル		1991年竣工	大阪市に現存（実施設計）	中小ビルが乱立する街区における賃貸事務所ビル。壁面に汎用性のある外装材を当てはめ、ステレオタイプのデザイン手法を組合わせた上で「並置」「重層」といった形態操作を施すことで雑多な街の景観との呼応を図った。

5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. さまざまな場所のかさなり 一人をつなぐ集合住宅ー	共	2018年6月刊行予定	近代建築 6月号別冊 卒業制作2015	全国大学建築系学科卒業設計優秀作品集に学科代表として掲載された作品の講評欄を執筆した。 作品概要執筆：坪田夏実
2. わがまち龍野ー龍野地区まちづくり協議会ニュースー35号	単	2016年7月25日発行	龍野地区まちづくり協議会	龍野の町並み保存についての意識について、伝統的家屋居住者へヒアリング調査した結果の途中報告記事を執筆した。
3. 子どもの寄り道	共	2015年6月	近代建築 6月号別冊 卒業制作2015p240, 241	全国大学建築系学科卒業設計優秀作品集に学科代表として掲載された作品の講評欄を執筆した。 作品概要執筆：河合咲枝
4. 「つみきの家」その後	共	2014年6月1日	近代建築 6月号別冊 卒業制作2014 p246, 247	全国大学建築系学科卒業設計優秀作品集に学科代表として掲載された作品の講評欄を執筆した。 作品概要執筆：山出谷薫
5. ル・コルビュジェ最後の7日間	共	2013年6月1日	近代建築 6月号別冊 卒業制作2013 p246-247	全国大学建築系学科卒業設計優秀作品集に学科代表として掲載された作品の講評欄を執筆した。 作品概要執筆：堤友紀
6. 雨の美術館 ー日本人の美意識をたどるー	共	2013年	日本建築学会 第54回 全国大学・高専卒業設計展示会	学生（畑澤里香）指導／全国大学・高専卒業設計展示会に出展した学科代表作品 畑澤里香, 山田由美
7. 変化する風景 ー一体感・滞在型余暇施設の提案ー	共	2012年	日本建築学会 第53回 全国大学・高専卒業設計展示会	学生（天米桃子）指導／全国大学・高専卒業設計展示会に出展した学科代表作品 天米桃子, 山田由美
8. from NAKAZAKIー中崎町の伝統工芸の伝承と世代間交流のためのコレクティブハウスー	共	2011年6月1日	近代建築 6月号別冊 卒業制作2011 p226-227	全国大学建築系学科卒業設計優秀作品集に学科代表として掲載された作品の講評欄を執筆した。 作品概要執筆：西川侑那

6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2015年4月～2018年3月	龍野まちづくり協議会 伝建部会
2. 2007年～現在	大阪府建築士会
3. 1989年～現在	日本建築学会